

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

78

白山 義久

線虫の仲間



線虫の標本はデジタル顕微鏡で拡大して見られる(ウォールケースで)

砂浜に立った皆さんの足元に、何千万という動物がいることをご存じだろうか。メイオペントス(小型底生生物)と呼ばれる1ミミにも満たない動物が、砂のすき間にたくさん暮らしている。その数は1坪四方でおよそ100万匹にも上る。

その中で最も多いのが線虫である。正式には線形動物という。白浜水族館では線虫の標本を、デジタル顕微鏡で拡大してウォールケースで展示している。*

地球の真の「支配者」

くすのよな生き物にしか見えないのだが、けっして侮ってはいけない。線虫はおそらく最も広く生物圏に分布している動物で、コブ

をすべて取り除いたとしても、宇宙からは線虫の薄いフィルムでできた地球を見ることができ「るだろう」

見つかるが、既知種を見つけるのは至難の業なのである。線虫には多数の寄生種が含まれ、回虫やギョウチュウなど、ヒトに寄生する種も多い。かつて医師の重要な仕事は、皮下に寄生する線虫を取り除くことだった。世界保健機関(WHO)のマークに蛇の巻きついたつえ

があらわれているが、この蛇は旧約聖書にでてくる

というアメリカの研究者は次のような言葉で、その繁栄ぶりを表現している。「もしこの世界から線虫以外

「火の蛇」であり、その正体はメジナ虫という、寄生性の線虫であるとされている。人類の健康は線虫との戦いだったことを物語っている。



蛇の巻きついたつえがあらわれた世界保健機関のマーク

から報告されている海産線虫はわずか70種。新種はいくらでも

線虫には植物に寄生する種も多数含まれる。世界の食糧生産の3割は、線虫が寄生することによって失われてしまっているとも言われている。人類の将来を左右する鍵を握っているのは、肉眼ではほとんど見ることができない糸くずのような生き物だといってもよいだろう。

(京都大学瀬戸臨海実験所長)